

園名 生駒市立中保育園

はばたくなら⑤

一人一人の子どもが主体的に生活し活動できる環境

5歳児 4月～

取組について

○言いたいことがあっても保育士に声をかけられることを待つ子どもや、自由な発想で制作することに苦手意識がある子どもがいる等の遊びにくい実態から、一人一人の子どもが主体的に生活し、活動できる環境づくりをテーマとして取り組みを進めている。

○上記の実態を踏まえ、制作活動の経験を通して自分の思いを出し、自信を持って活動できる環境設定や、一人一人の試行錯誤してきた過程を受け止め、達成感や充実感を味わえる体験を積み重ねられるようにすることを大切にしてきた。

○年長組になると異年齢交流ができるかと期待していた子どもたちはコロナ禍により交流ができなくなり残念に思っていた。その思いを感じていた保育士が、何かできる交流はないかと考えていたところ、偶然たくさんの段ボールを頂くことができ、子どもと一緒に活用を考えた。すると、子どもから「小さい組さんにもあげたらいいやん」という言葉が出る。そこで、気の合う友達同士の中で、言いたいことを言い合える関係ができてきたこともあり、小グループでの活動から始め、全体への活動に広げていった。

実践事例

【廃材入れと素材入れ
及び制作の様子】

4歳の時、作品展で初めて空き箱制作をした。子どもたちにとって扱いやすい空き箱、ゼリーカップ等の身近な素材を準備すると、組み立てて遊んでいた。5歳児になると、自然に自分たちで手に取って制作を始めた。



【異年齢へのプレゼント制作】

たくさんの段ボールを見て、
どう使っていくか話し合いをする

それぞれの年齢を
意識したデザインは、
自分たちで
話し合っ作る

小さいクラスの
人にもあげたら
いいやん！



小グループでの制作



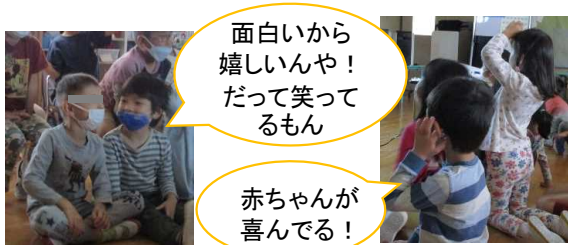
できた！
みんな喜んで
くれるかな～？



○各年齢にプレゼントした作品



○自分が作った物を喜んで遊んでくれているかな～(ビデオ視聴)



【段ボールの道作り】

○今までの経験を活かし、今度は自分たちで遊べるものを作ってみよう

自然とできた小グループに分かれ、ロッカーなどに立てかけてみた

小グループが自然と解体され、様々な友だち同士でアイデアを出し合っている

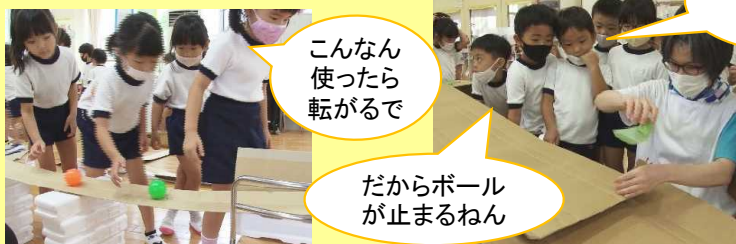


段ボールを床に繋げただけで、ボールが転がるかなあ



保育士が緩やかな高低差をつけた道を作ってまずその転がり方を体験した

保育室内の椅子、発砲スチロール等、自由に使ってみた



段ボール、(繋ぎ目)反対やん！

できたよ！どこまで転がるかなあ



(まとめ)

- ・主体性を持って遊びや活動に取り組むためには、玩具などの物的環境、保育士の言葉や姿勢などの人的環境が大切と考え、まずは作っている子どもの姿を観察して次の手立てを考えることを繰り返してきた。小グループでの活動が主だったが徐々に変わり、友だち関係の広がりや、見て考える力の深まり、そしてそれを伝えようとする力が育まれてきたように感じる。
- ・園全体で継続して取り組んできた異年齢交流がある。子どもたちは3、4歳児の頃から5歳児を見て憧れの気持ちを持ち、進級したときには自分たちができると期待していたところ、コロナ禍によりできなくなってしまった。その気持ちを大切に、物を介しての交流を設定した。子どもたちはそれぞれアイデアを出し、積極的に取り組むことができた。

(成果)

- ・慣れない空き箱制作を避け、親しんできたブロックなどで遊ぼうとしてきた子どもが、段ボール制作の経験を積み重ねることで、自分なりのイメージを抱いて友だちと会話しながら好きな物を作り、それで遊んではまたやり直し、さらに工夫し遊びを広げる姿が見られるようになった。
- ・生活の中でも、保育士に考えたことを提案したり、何が必要かを考え見通しをもって準備する姿がみられるようになった。翌日の予定を楽しみに登園する姿も増えた。

(課題)

- ・友だちとの関わりが深まり、子どもたちの興味関心も大きく広がってきている。これから5歳児としての行事が多くある中で、子どもたちの思いや考えを取り入れて、どこまで発想を豊かに活動していくことができるのか、そして子ども同士の意見や気持ちのやりとりをどこまで深めていけるのか、担任同士で一人一人の子どもの姿を話し合い、環境を整えていきたい。